SOPHIA U

2026年度春学期
大学授業アンケート集計・分析報告

FD委員会・IR推進室

今回の分析から見えた3つのこと

全体として授業評価は非常に高い

満足と学修成果は、関連する要因が異なる

単純集計だけでは見えない構造がある

1 全体として授業評価は非常に高い

- 4.39 満足度 Q13平均
- 4.35 到達目標 Q10平均
- 4.60 教員の意欲 Q2平均
- 4.63 シラバスとの整合 Q9平均

学生から見た本学の授業は、全体として高く評価されている

2 「満足」と「学修成果」は、関連する要因が異なる

満足度 Q13 説明のわかりやすさ → 到達目標 Q10 主体的な取り組み → 知的刺激 Q11 主体性＋深い学び

3つの指標は互いに関連するが、重視される要因は同じではない

3 単純集計だけでは見えない構造がある

単純集計	多変量分析
学修時間が長い学生ほど評価は高い	他の要因を考慮すると、学修時間そのものの関連は小さい

学生差と授業差を分けて分析し、授業改善につながる示唆を抽出

本報告では、満足度だけでなく『学修成果』『知的刺激』も含めて授業の質を捉える

分析対象と分析方法

分析対象データ

- **48,179** 件の回答
  Q1〜Q13 欠損なし
- **9,419** 人
  回答者数
- **2,154** 授業
- **1,438** 科目
- **899** 人
  主担当教員数

✓ Q1〜Q13：欠損なし

分析の流れ

単純集計	平均・分布・天井効果
↓	
相関分析	設問間の関係
↓	
因子分析	11項目の構造
↓	
重回帰分析	各アウトカムの関連要因
↓	
混合効果モデル	学生・授業の違いを考慮

✓ 階層構造を考慮して分析

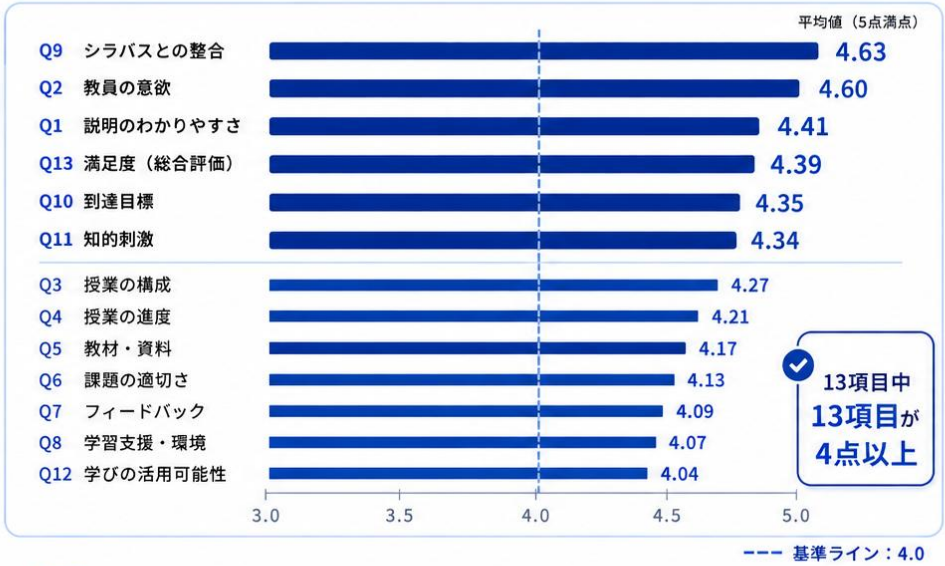
同じ学生が複数授業を受け、同じ授業に複数の学生が回答しているため、
学生による違いと授業による違いを分けて分析

→ **学生差と授業差を考慮**

全学的には非常に高い授業評価

全体傾向

Q1～Q13の平均はすべて4点以上で、総じて非常に高い評価



主要指標

4.63
Q9 シラバスとの整合
シラバスどおりに授業が進められていた

4.60
Q2 教員の意欲
教員は意欲的に授業に取り組んでいた

4.41
Q1 説明のわかりやすさ
教員の説明はわかりやすく、理解の助けになった

4.39
Q13 満足度（総合評価）
この授業について総合的に満足している

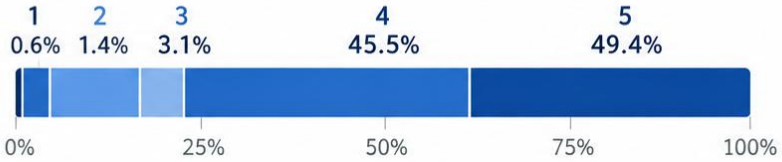
授業運営・教員の姿勢・総合満足度はいずれも高い | ほとんどの設問が**4点以上**

平均値だけでは見えない：項目によって「ばらつき」が違う

Q9 シラバスとの整合

平均（Mean）	4・5回答の割合
4.63	94.9%

回答分布（1〜5）



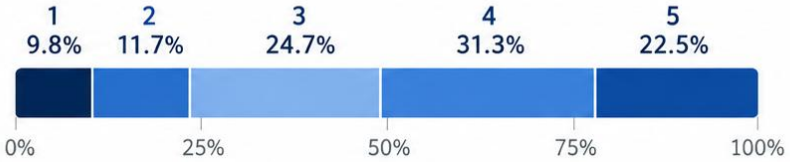
高得点に集中

VS

Q4 アクティブラーニング

平均（Mean）	標準偏差（SD）	1・2回答の割合
3.83	1.40	21.5%

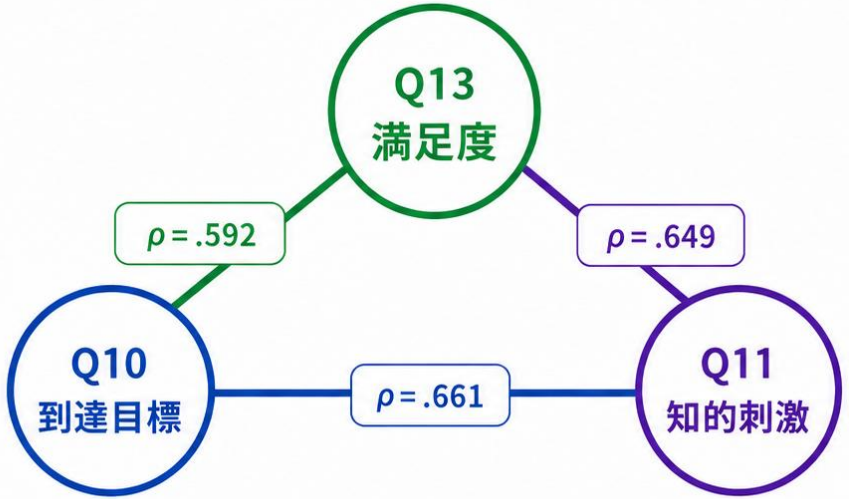
回答分布（1〜5）



ばらつきが大きい

授業運営は高得点に集中する一方、授業方法には大きな多様性がある

「満足」「学修成果」「知的刺激」は同じものではない



3つの指標は強く関連しているが、完全に同じものではない

Q13 満足度
「よかった」という総合評価

Q10 到達目標
「学べた」という成果実感

Q11 知的刺激
次の学びへの動機づけ

相関は強いが、完全に同じものではない → そこで、満足・学修成果・知的刺激を分けて分析

満足度には「わかりやすさ」と「知的刺激」が特に強く関連



最重要要因

Q1 説明のわかりやすさ

$\beta = 0.319$

次に強い関連

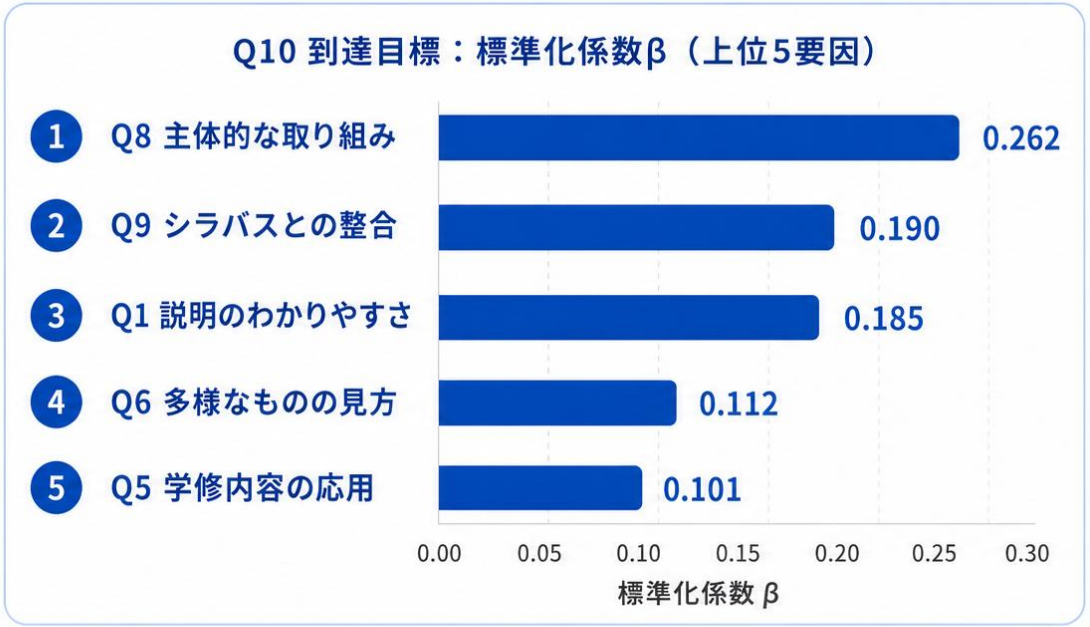
Q11 知的刺激

$\beta = 0.222$

分かりやすさが基盤。そのうえで知的な面白さが満足度をさらに押し上げる

※ βは相対的な関連の強さを示す

「学べた」と感じる授業では、学生の主体性が重要



最も強い関連

Q8 主体的な取り組み

$\beta = 0.262$

到達感を支える要素

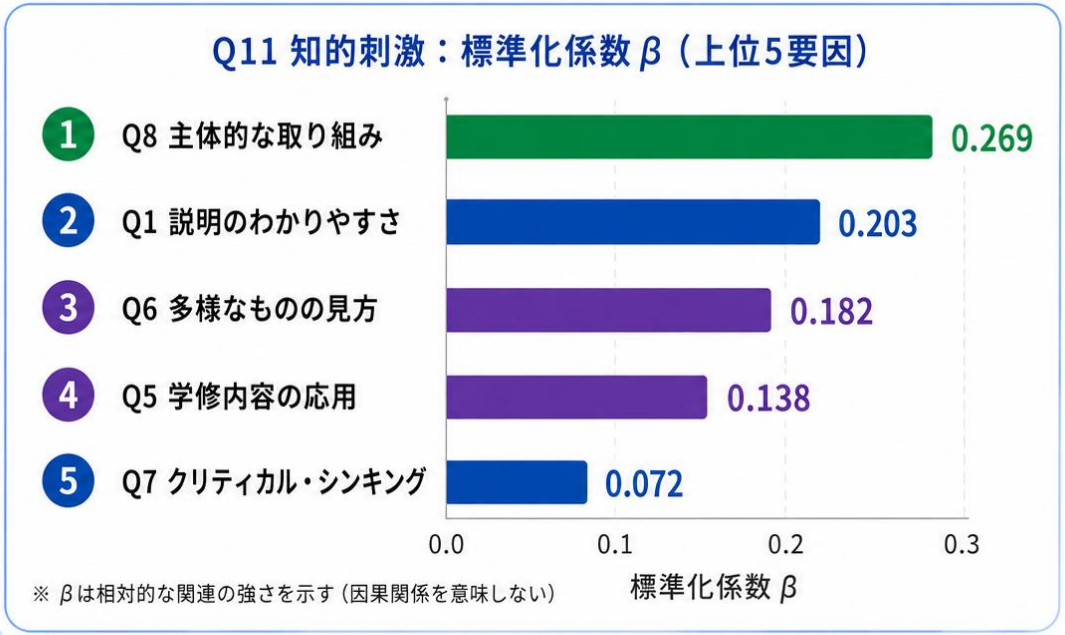
Q9 シラバス整合 $\beta = 0.190$

Q1 わかりやすさ $\beta = 0.185$

分かりやすいだけでなく、学生自身が目的を意識して取り組むことが重要

※ βは相対的な関連の強さを示す

「もっと学びたい」を生むのも主体性



最も強い関連

Q8 主体的な取り組み

$\beta = 0.269$

『深い学び』に関わる要素

Q6 多様なものの見方 $\beta = 0.182$

Q5 学修内容の応用 $\beta = 0.138$

知的刺激の構造

『主体性』＋『深い学び』

Q1 わかりやすさ $\beta = 0.203$

『わかった』で終わらず、自分で考え、応用する経験が次の学びへの意欲につながる

満足する授業と、学べる授業は同じではない



満足度
最重要：Q1 わかりやすさ
β = 0.319

到達目標
最重要：Q8 主体性
β = 0.262

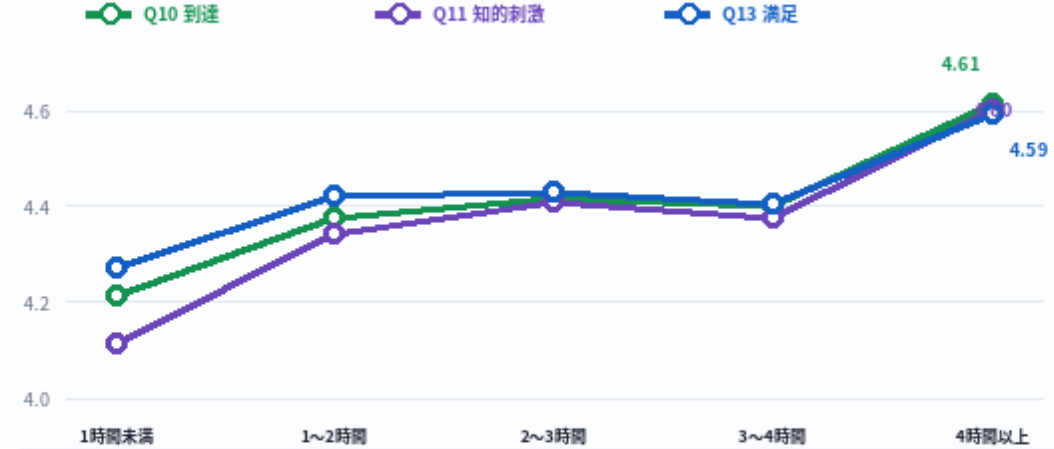
知的刺激
最重要：Q8 主体性
β = 0.269

「満足する授業」と「学べる授業」は、同じではない

満足＝わかりやすさ ／ 到達・知的刺激＝主体性＋深い学び

授業外学修時間：「長ければよい」とは単純に言えない

単純比較　授業外学修時間が長い学生ほど、3指標とも高い傾向



4時間以上では Q10=4.61、Q11=4.60、Q13=4.59

他要因を考慮

Q12 学修時間の標準化係数 β

Q10 到達目標
β = 0.003
有意ではない

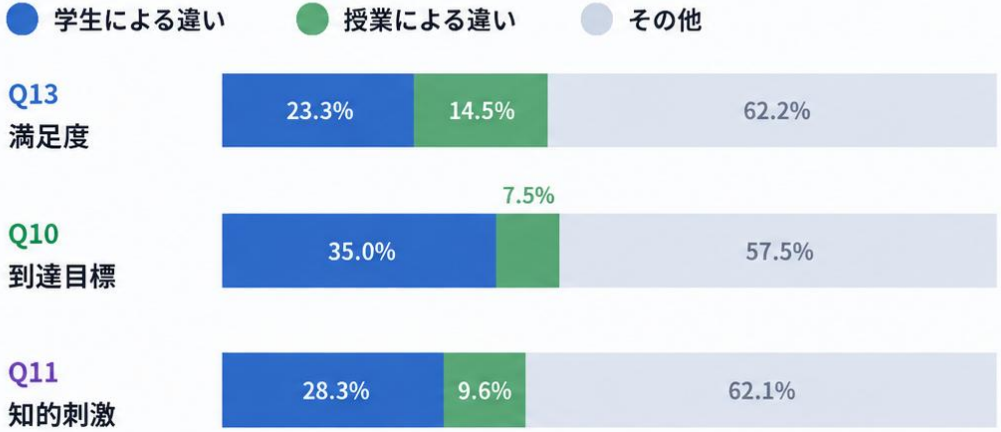
Q11 知的刺激
β = 0.027
ごく小さい正の関連

Q13 満足度
β = −0.016
ごく小さい負の関連

学修時間が長い学生ほど評価は高いが、
他の要因を考慮すると「時間そのもの」の独立した関連は非常に小さい

「学生の違い」と「授業の違い」を分けてみる

回答の違いを「学生差」と「授業差」に分けてみる



※ ICC：回答のばらつきのうち、学生・授業それぞれの違いが占める割合

到達目標は学生差が特に大きい

学生差 35.0%

授業差 7.5%

満足度では授業差も無視できない

学生差 23.3% ／ 授業差 14.5%

授業そのものの違いも一定程度反映

読み取りのポイント

「授業」だけでなく「学生」も見る

学修成果は授業の提供だけで完結しない

授業改善に加えて、学生自身が主体的に学べる仕掛けが重要

アンケート11項目から見える「授業の質」の構造



因子分析の適合は良好

KMO	RMSEA	TLI
0.94	0.040	0.985

Q1～Q11全体の $\alpha = 0.91$

因子間相関

.60 ～ .81

完全に独立ではなく、共通する「授業の質」を共有

Q4はほぼ単独因子

4つの確立した尺度というより、
回答構造として「おおむね4側面」と解釈

授業の質は1つの指標ではなく、複数の側面から構成される

「教員・授業運営」＋「主体性・成果」＋「深い学び」＋「参加型学修」

授業改善への示唆

1 わかりやすさは授業満足の基盤

- 説明を整理する
- 授業構成を明確にする
- 学修目標を明確にする

→ 学生が「何を学んでいるか」を理解できる授業

2 学生を主体化する授業設計

- 学修目標を意識させる
- 自分で考える機会をつくる
- 応用・関連づけを促す
- 振り返りの機会をつくる

→ 学生自身が学修過程に関与する授業

3 満足度だけを授業改善指標にしない

- Q13 満足度
- Q10 到達目標
- Q11 知的刺激

→ 3つの指標をセットで見る

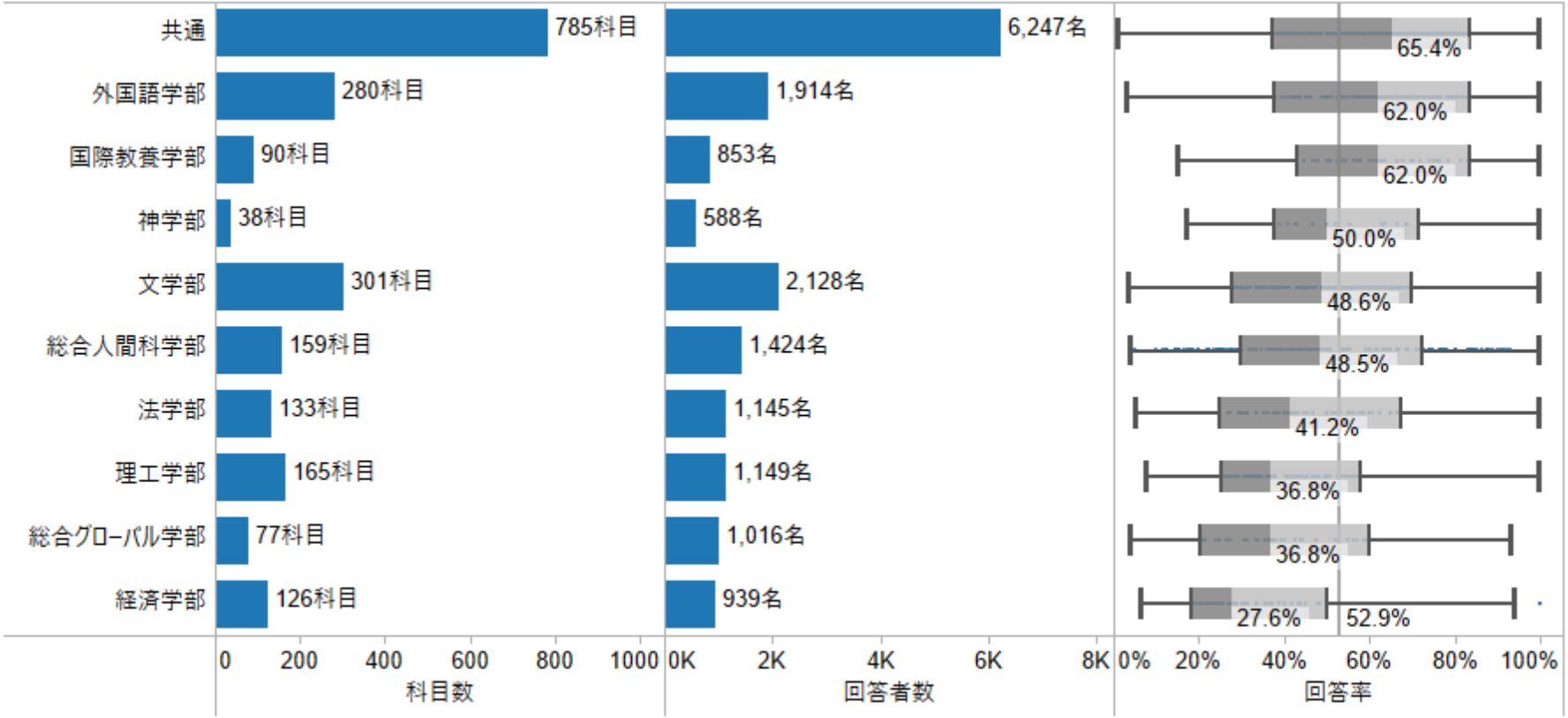
「分かりやすい授業」から、さらに
「学生自身が主体的に学べる授業」へ

まとめ

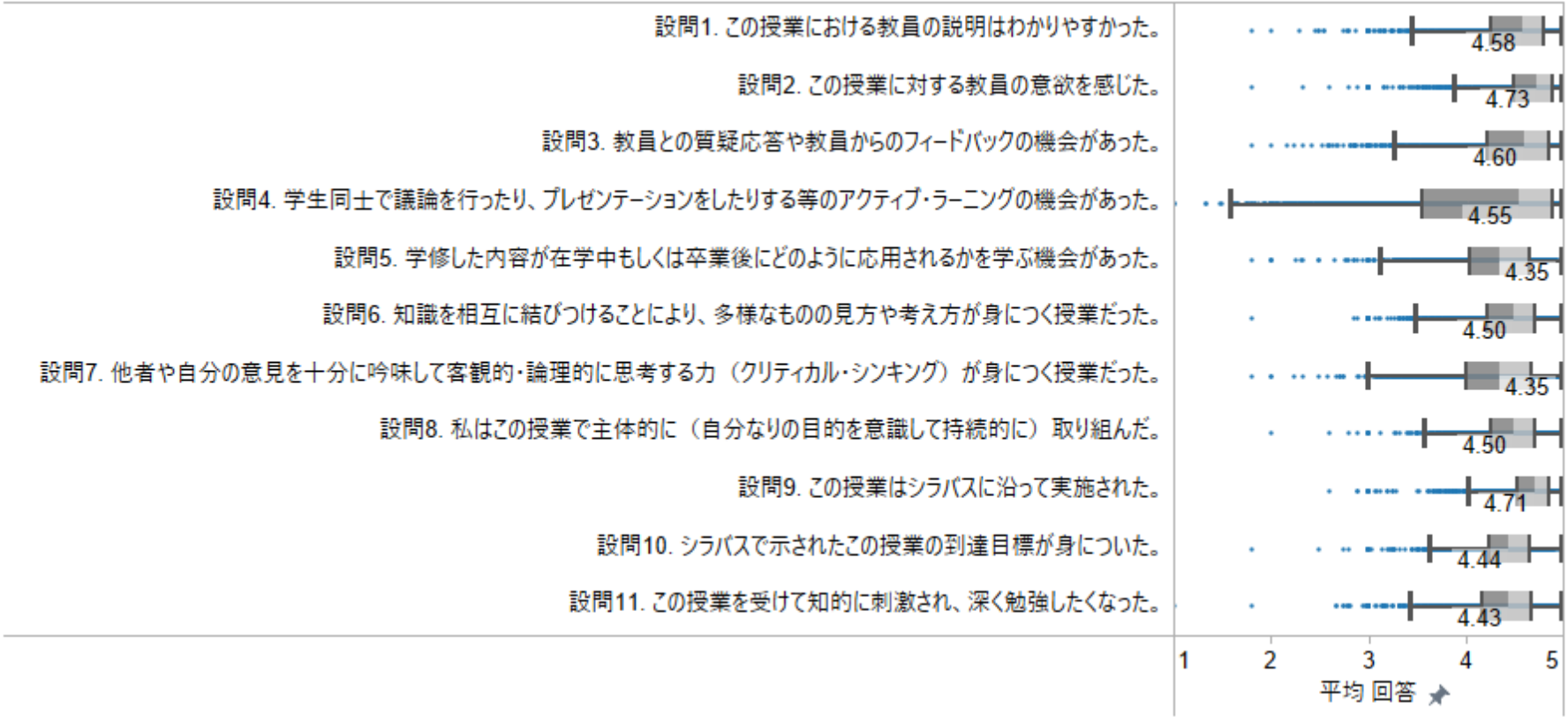

1
全体として非常に高い授業評価
満足度
4.39
★★★★☆
到達目標
4.35
★★★★☆
教員の意欲
4.60
★★★★☆
シラバス整合
4.63
★★★★☆
2
満足度には「説明のわかりやすさ」が最も強く関連
Q1 わかりやすさ β = 0.319
次いで Q11 知的刺激 β = 0.222
わかりやすい説明は満足度の基盤となり、次いで「知的に刺激されること」が影響
授業改善では、
「分かりやすさ」だけでなく
学生自身が主体的に
学び、考え、応用できる
授業設計が重要
3
到達目標・知的刺激には「主体性」が最も強く関連
Q10：Q8 主体性 β = 0.262
Q11：Q8 主体性 β = 0.269
主体的に学び・考え・応用する姿勢が、到達目標の実現と知的刺激に直結
「分かりやすい授業」から、さらに
「学生自身が主体的に学べる授業」へ

Appendix 単純集計

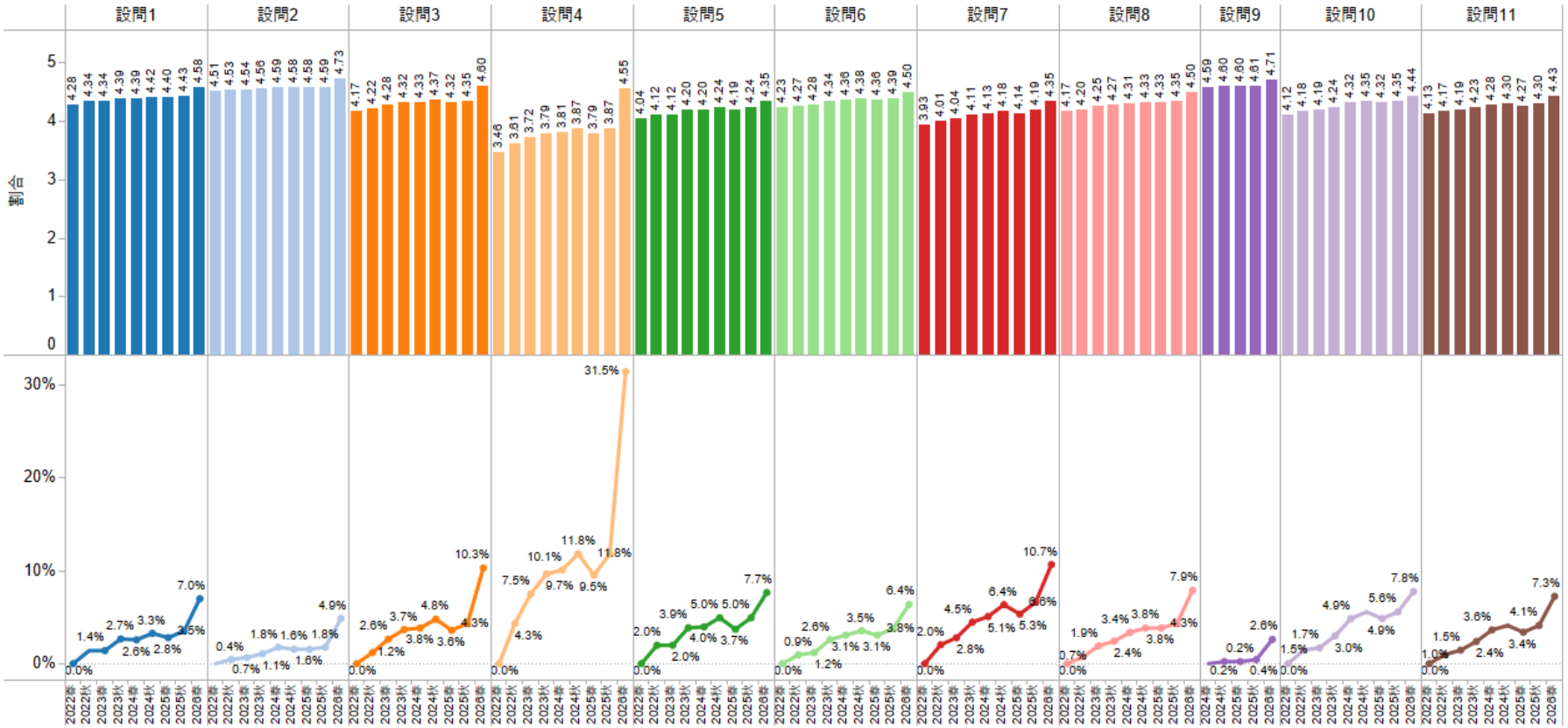
科目数、回答者数、回答率


共通
外国語学部
国際教養学部
神学部
文学部
総合人間科学部
法学部
理工学部
総合グローバル学部
経済学部
785科目
280科目
90科目
38科目
301科目
159科目
133科目
165科目
77科目
126科目
6,247名
1,914名
853名
588名
2,128名
1,424名
1,145名
1,149名
1,016名
939名
65.4%
62.0%
62.0%
50.0%
48.6%
48.5%
41.2%
36.8%
36.8%
27.6%
52.9%
0
200
400
600
800
1000
科目数
0K
2K
4K
6K
8K
回答者数
0%
20%
40%
60%
80%
100%
回答率

設問1-11

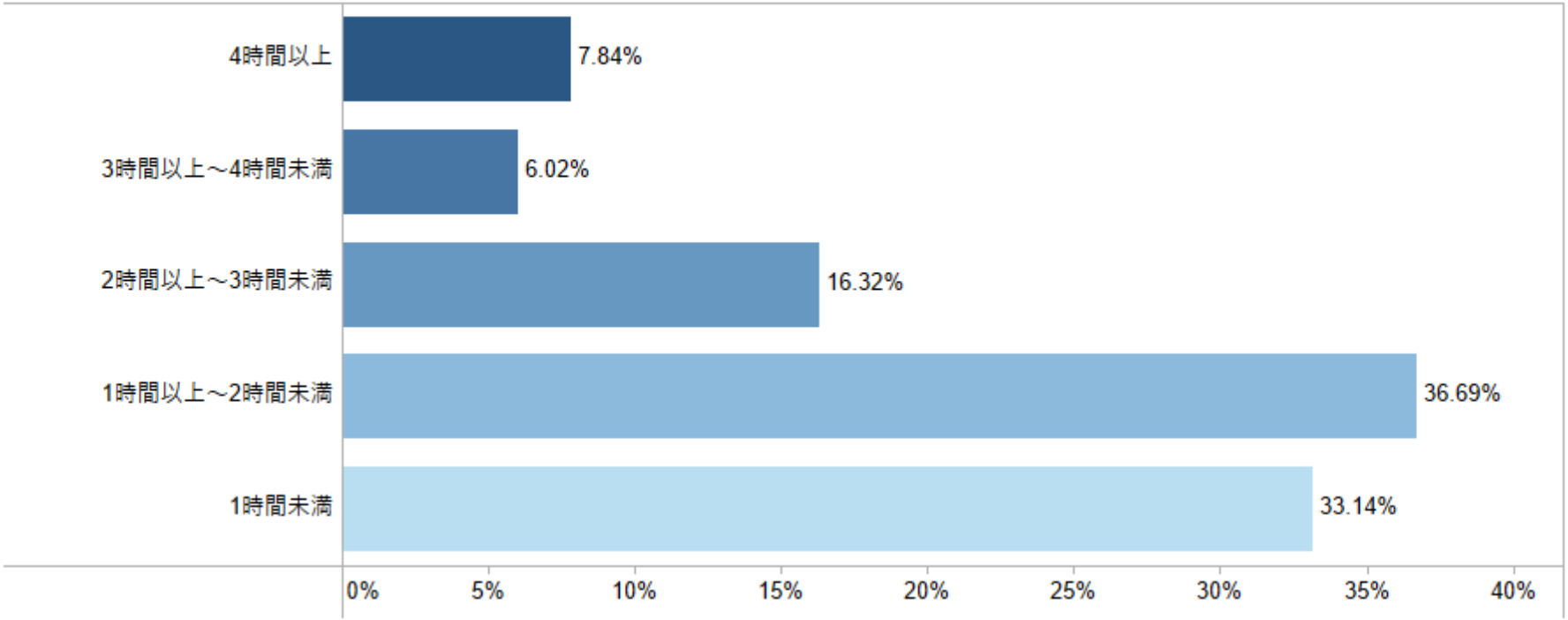

設問1. この授業における教員の説明はわかりやすかった。
4.58
設問2. この授業に対する教員の意欲を感じた。
4.73
設問3. 教員との質疑応答や教員からのフィードバックの機会があった。
4.60
設問4. 学生同士で議論を行ったり、プレゼンテーションをしたりする等のアクティブ・ラーニングの機会があった。
4.55
設問5. 学修した内容が在学中もしくは卒業後にどのように応用されるかを学ぶ機会があった。
4.35
設問6. 知識を相互に結びつけることにより、多様なものの見方や考え方が身につく授業だった。
4.50
設問7. 他者や自分の意見を十分に吟味して客観的・論理的に思考する力（クリティカル・シンキング）が身につく授業だった。
4.35
設問8. 私はこの授業で主体的に（自分なりの目的を意識して持続的に）取り組んだ。
4.50
設問9. この授業はシラバスに沿って実施された。
4.71
設問10. シラバスで示されたこの授業の到達目標が身についた。
4.44
設問11. この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった。
4.43
1
2
3
4
5
平均 回答

設問1-11（経年）

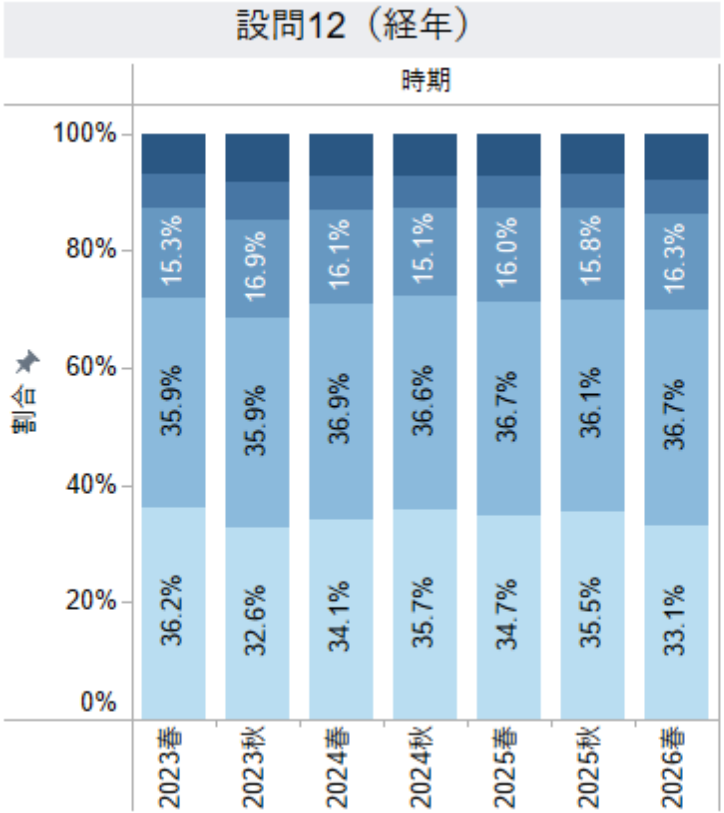

設問1
設問2
設問3
設問4
設問5
設問6
設問7
設問8
設問9
設問10
設問11
割合
0
1
2
3
4
5
0%
10%
20%
30%
4.28 4.34 4.34 4.39 4.39 4.42 4.40 4.43 4.58
0.0% 1.4% 2.7% 3.3% 2.6% 2.8% 3.5% 7.0%
4.51 4.53 4.54 4.56 4.59 4.58 4.58 4.59 4.73
0.4% 0.7% 1.8% 1.1% 1.6% 1.8% 4.9%
4.17 4.22 4.28 4.32 4.33 4.37 4.32 4.35 4.80
0.0% 2.6% 3.7% 1.2% 3.8% 4.8% 3.6% 4.3% 10.3%
3.46 3.61 3.72 3.79 3.81 3.87 3.79 3.87 4.55
0.0% 7.5% 4.3% 10.1% 9.7% 11.8% 9.5% 11.8% 31.5%
4.04 4.12 4.12 4.20 4.20 4.24 4.19 4.24 4.35
0.0% 2.0% 3.9% 2.0% 4.0% 5.0% 3.7% 5.0% 7.7%
4.23 4.27 4.28 4.34 4.36 4.38 4.38 4.39 4.50
0.0% 0.9% 2.6% 1.2% 3.1% 3.5% 3.1% 3.8% 6.4%
3.93 4.01 4.04 4.11 4.13 4.18 4.14 4.19 4.35
0.0% 2.0% 4.5% 2.8% 5.1% 6.4% 5.3% 6.6% 10.7%
4.17 4.20 4.25 4.27 4.31 4.33 4.33 4.35 4.50
0.0% 0.7% 1.9% 2.4% 3.4% 3.8% 3.8% 4.3% 7.9%
4.59 4.80 4.80 4.81 4.71
0.2% 0.2% 0.4% 2.6%
4.12 4.18 4.19 4.24 4.32 4.35 4.32 4.35 4.44
0.0% 1.5% 1.7% 3.0% 4.9% 4.9% 5.6% 7.8%
4.13 4.17 4.19 4.23 4.28 4.30 4.27 4.30 4.43
0.0% 1.0% 1.5% 2.4% 3.6% 3.4% 4.1% 7.3%
2022春 2022秋 2023春 2023秋 2024春 2024秋 2025春 2025秋 2026春

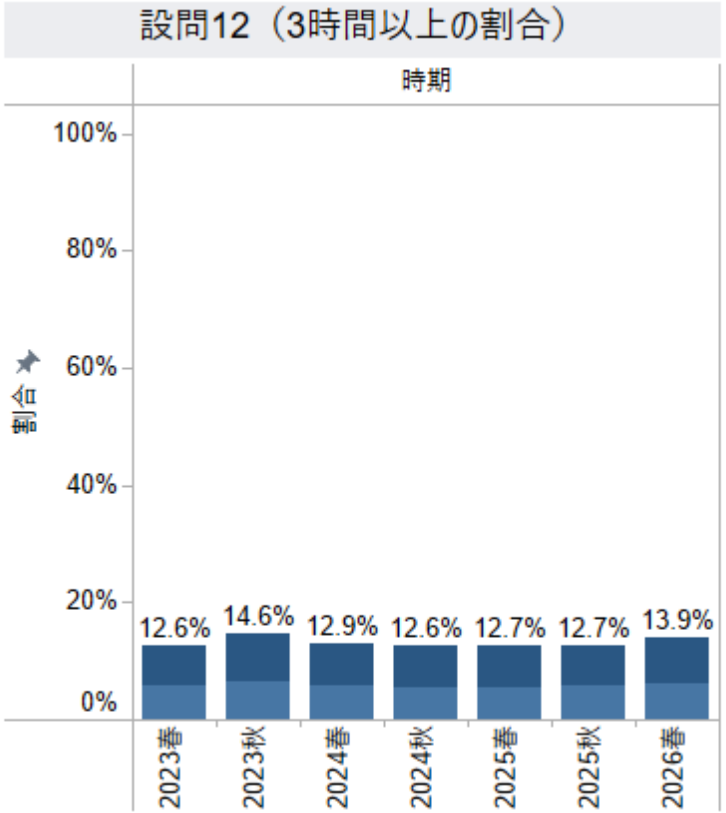
授業時間外学修時間

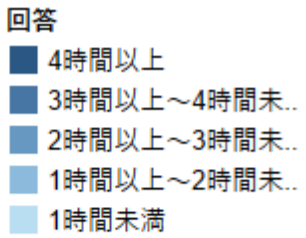
設問12. この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。



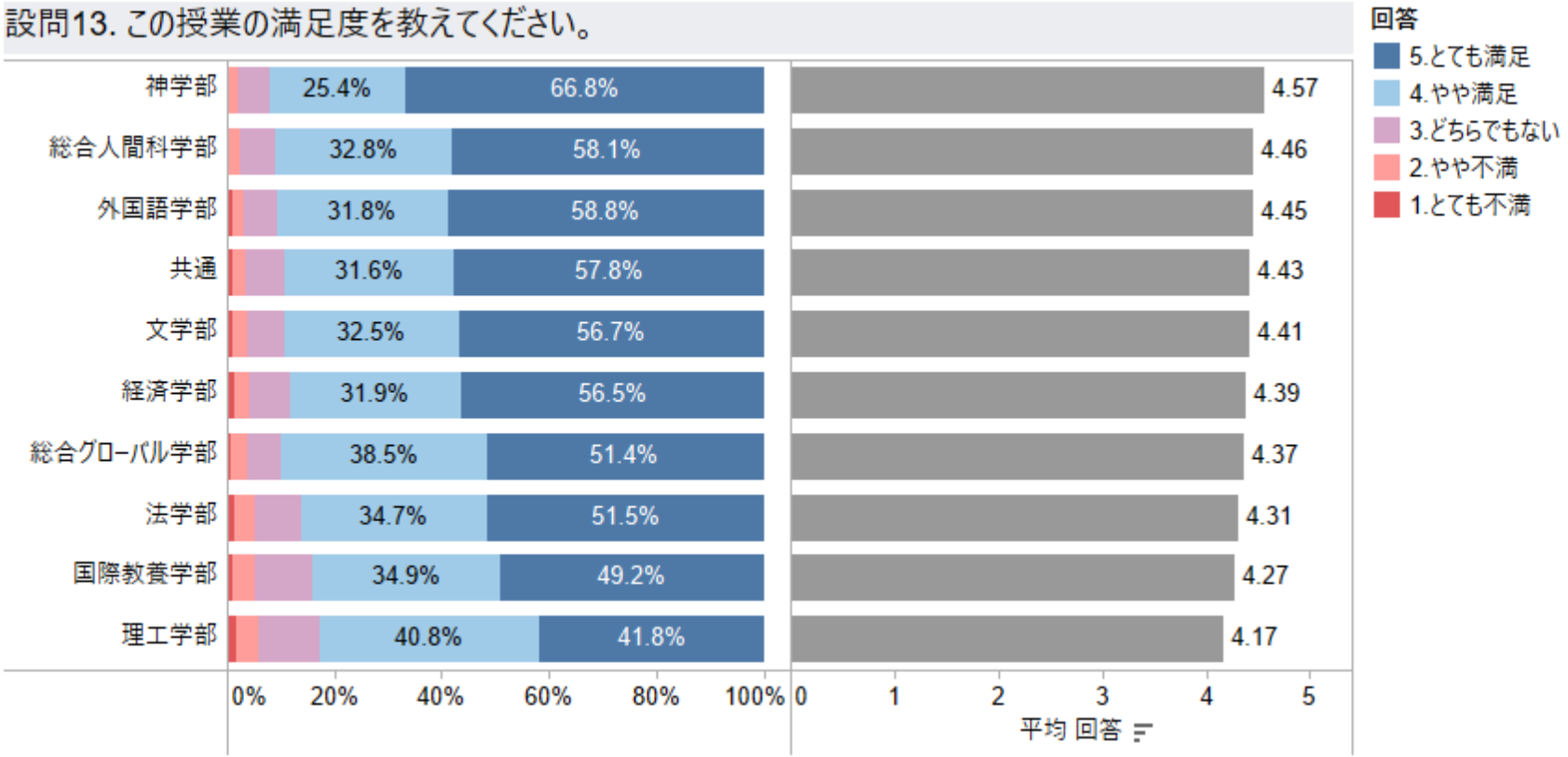
授業時間外学修時間


設問12（経年）
時期
割合
100%
80%
60%
40%
20%
0%
15.3%
16.9%
16.1%
15.1%
16.0%
15.8%
16.3%
35.9%
35.9%
36.9%
36.6%
36.7%
36.1%
36.7%
36.2%
32.6%
34.1%
35.7%
34.7%
35.5%
33.1%
2023春
2023秋
2024春
2024秋
2025春
2025秋
2026春


設問12（3時間以上の割合）
時期
割合
100%
80%
60%
40%
20%
0%
12.6%
14.6%
12.9%
12.6%
12.7%
12.7%
13.9%
2023春
2023秋
2024春
2024秋
2025春
2025秋
2026春


回答
4時間以上
3時間以上～4時間未..
2時間以上～3時間未..
1時間以上～2時間未..
1時間未満

満足度


設問13. この授業の満足度を教えてください。
回答
5.とても満足
4.やや満足
3.どちらでもない
2.やや不満
1.とても不満
神学部
総合人間科学部
外国語学部
共通
文学部
経済学部
総合グローバル学部
法学部
国際教養学部
理工学部
25.4%
66.8%
32.8%
58.1%
31.8%
58.8%
31.6%
57.8%
32.5%
56.7%
31.9%
56.5%
38.5%
51.4%
34.7%
51.5%
34.9%
49.2%
40.8%
41.8%
4.57
4.46
4.45
4.43
4.41
4.39
4.37
4.31
4.27
4.17
0%
20%
40%
60%
80%
100%
0
1
2
3
4
5
平均 回答



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

FOR OTHERS, WITH OTHERS